

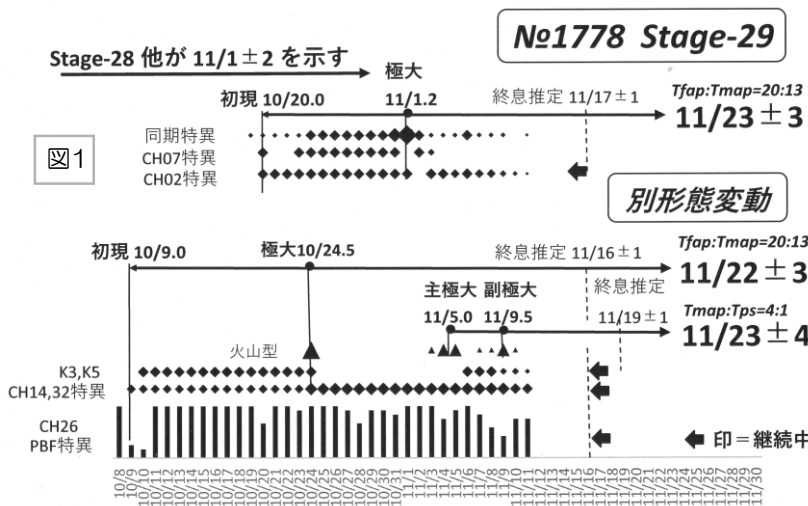
ハヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様へ配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

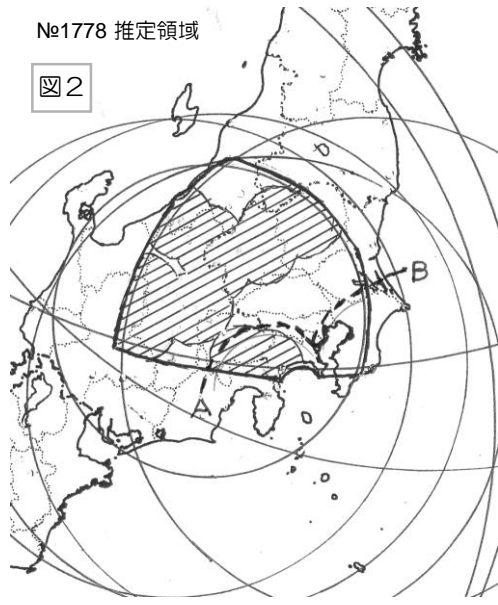
※8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

### No1778 長期継続前兆変動 続報



前号に記した11/5の火山性変動は11/9にも出現し、主極大、副極大の可能性認識です。主極大が長いのでTmap:Tps=4:1近似。従いまして、現状は近傍火山の噴火の可能性は考えられないこととなります。  
本日現在まだ変動継続中のため、少なくとも11/17以前に対応地震が発生する可能性は否定されず。

変動は図1のとおり関係の可能性を考えております。PBF特異は15分程度の周期が現在は1～3時間まで伸び、数時間出現がない時間帯もあります。主な継続変動は、CH32特異とCH26PBF特異です。他は微弱。  
図1の認識が仮に正しい場合は11月23日±3 対応地震発生の可能性が示唆されます。  
11月20日以降も変動が継続した場合は再考が必要となります。



A～B弧線以南の可能性は低い

- 推定領域：図2の太線領域内＝大枠推定領域  
図2斜線域＝可能性が考えやすい推定領域  
震央が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3 または  
複合の場合＝M7.4±0.3 + M7.3±0.3 他等  
Log L=0.5M-1.8 (Utsu). 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約150km程度となる様な複合地震活動の可能性
- ※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい  
(今後噴火変動が観測された場合は続報予定)
- 推定時期：11/23±3 (静穏化確認後修正)  
11/20以降変動継続の場合は再考予定  
※11/17以前に静穏化の場合は修正します
- 推定地震：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3  
(午前09時～11時の可能性若干高い)